

学力向上にかかわる学校経営方針

- 生徒の実態、学力調査等のきめ細かな分析により、改善への方策を明確にする。
- 言語活動の充実を図り体験的な学習を取り入れた授業展開をすべての教科、領域で積極的に実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。
- 学習のねらいと振り返りの場面の設定を明確にし、基礎的、基本的な学習の定着と活用力の育成に努める。
- 少人数指導を効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的な授業参加により、情報活用能力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- 朝読書や図書館教育を充実させ、生徒の読書力を伸ばし、生き方を考え、生徒の教養を高める。
- 生徒一人一人に応じた、きめ細かな指導を進める。
- 通常学級における支援を必要とする生徒への指導体制の整備を進める。
- 授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にとってもわかりやすい授業づくりに努める。
- 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の充実を図る。



現状と課題（全国および県の学力学習状況調査等の分析結果）

- ・埼玉県学力学習状況調査では、全学年で平均正答率が県平均よりも大きく上回っている。
- ・2年生での作図の問題で、「垂直二等分線の意味」が県平均よりも若干下回っていた。
- ・1年生での図形の領域の問題で、「点対称の図形を選ぶ」が県平均よりも若干下回っていた。
- ・図形の領域では、2年生で「作図した直線について、つねに成り立つものを選ぶ」、3年生で「正多角形の1つの外角の大きさを選ぶ」が県平均よりも若干下回っていた。
- ・それぞれの学年においてもっとも無回答が多かった問題は、1年生の「縮図から実際の木の高さを求める」が10.8%、2年生の「ある図形をつくるのに必要なマッチ棒の本数を求める式を作る方法を説明する」が31.2%、3年生の「2点を通る直線の式を求める」が25.2%であった。県平均、市平均ともにもっとも無回答率が高い問題である。



課題解決のための方策

- ・毎時間、授業のはじめに既習事項の小テストを行い、集中した状態から授業に取り組ませる。また、これによって、基礎・基本の定着を図り、さらに授業内容の理解を目指す。
- ・教師の説明の時間を最小限にし、生徒が自分の言葉で伝え合い、発表し合える時間を確保していく。また、指示を明確にし、発問を工夫することで、生徒が効率よく問題を解決できるように努める。
- ・各単元の要点やつまずきを分析し、毎時間、授業のねらいを明確に提示し、分かりやすい授業の展開を目指す。
- ・第1学年で少人数指導を行い、自力解決を図るための個に応じた指導の充実を図る。



授業における指導の工夫

- ・授業のねらいを明確に提示し、本時の課題を理解させる。
- ・授業のはじめの小テストや計算力コンテストを実施し、基礎学力の定着を図る。
- ・生徒が主体的に取り組む授業づくりを心がける。
- ・授業を活性化する教材・教具の工夫をする。
- ・言語活動を通して、意欲を持ち、自主的・主体的に学習する生徒を育成する。
- ・授業に少人数による学習を取り入れ、生徒が考えを伝え合い、協力して学び合う機会を多くする。
- ・発表ボードを班活動で活用し、それぞれの班同士が意見を交換して、より考えが深まるような授業づくりに努める。
- ・ICTを効果的に活用し、生徒の理解を深める。